

国語プリント No. ()

配布日 月 日 曜

年 組 番 名前

母子猿 口語訳



- (1) 豊前の国の住人で、太郎入道という者が、いたそうだ。／
- (2) まだ出家していなかつた頃、いつも猿を射たそうだ。／
- (3) ある日山を歩いていた時に、大猿がいたので、木に追いつめ登らせて、矢を射たところ、ねらつたとおりに木のまで射止めてしまったそうだ。／
- (4) 今にも猿が落ちそになつたところ、何であろうかある物を、木のまたに置くようにすると、何とまあ子猿であつたそだ。／
- (5) 自分が傷を負つて、地上に落ちそになるので、子猿を、その背負つていた子猿を助けようとして、木のまたに置くとしているのだった。
- (6) 子猿はまた、母親にすがりついて離れまいとしていた。／
- (7) このように何回もするのだけれども、なおも子猿がすがりついたので、親子ともども一緒に地に落ちてしまった。／
- (8) それよりずっと、猿を射ることをやめてしまったそうだ。
- 太郎は何のために猿を射ていたのか。
大猿はどうして子猿を木のまたに置こうとしていたのか。
子猿はどうして大猿にしがみついていたのか。
太郎はどうして猿を射るのをやめてしまったのか。